

地震発生時、屋内にいたら

自宅

- テーブルなどの下に隠れて身を守る。なければクッションなどで頭を守る。
- 料理中で、可能ならすぐ火を消す。台所は食器棚、冷蔵庫など危険が多いため、早く離れる。
- 大きな揺れがおさまったら、すぐに逃げ道を確保する。



デパート・スーパー

- 手荷物やカゴで頭を保護する。商品の落下やガラスの破片に注意する。
- 店員の指示にしたがい、行動する。



地下街

- 大きな柱や壁に身を寄せ、揺れがおさまるのを待つ。
- 地下街には、およそ50m以内に出口があるので、落ち着いて行動する。



地震発生時、屋外にいたら

路上

- 手荷物などで頭を保護し、広い場所へ避難する。
- 橋からはすぐに避難する。
- 街ではガラス、看板などの落下物や自動販売機の転倒に注意する。
- 住宅街ではプロック塀や門柱に注意する。



自動車

- 急ブレーキは絶対しない。徐々に減速し、道路の左側に停止し、エンジン切る。
- 揺れがおさまるまで車外に出ず、ラジオなどで情報を確認する。
- 緊急時に移動させることもあるため、キーはつけたまま、ドアロックもしない。



電車・バス

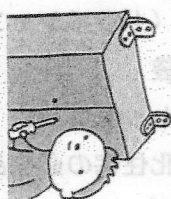
- 電車は揺れを感じると自動で停車する。
- 将棋倒しや網棚からの落下物に注意し、つり革や手すりにつかまる。
- 係員の指示にしたがい行動する。



家の中の安全対策

家具の転落・落下防止

家具と壁の間にすき間をつくらない。
L字型金具や家具の転倒防止シートなどを利用し転倒・落下を防ぐ。



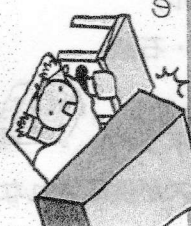
窓ガラスの飛散防止

窓や食器棚などに飛び散り防止フィルムをはる。



家具を安全に配置

寝室や子ども、高齢者の部屋には倒れそうな家具はできるだけ置かない。



避難路を確保

避難路を確保するため、通路や出入口にはできるだけ荷物を置かない。



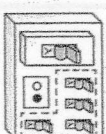
みんなでチェック

通電火災

通電火災の危険性が明らかになったのは、阪神・淡路大震災です。原因が特定された建物火災の約6割が、通電火災によるものでした。地震で停電が発生しブレーカーを落とさずに避難すると、電気が復旧した際、通電状態となった電気ストーブやトースター、または、地震によって傷ついた配線がショートして出火する事例が相次ぎました。

地震後避難する際は、ブレーカーを遮断しましょう。

また、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する感震ブレーカーも効果的です。各家庭に設置することで出火を防止し、他の住宅等への延焼を防ぐことで、被害を大きく軽減することができます。



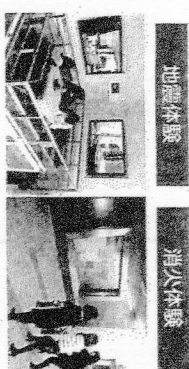
福岡市民防災センター

福岡市民防災センターは、いざという時のために様々な災害の模擬体験をしていただき、防災に関する知識・技術・行動力を身につけていただく施設です。子供から大人まで、多くの方のご利用をお待ちしております。

<開館時間>
午前9時30分～午後5時まで（入館は午後4時30分まで）

<入館料>
無料です

<休館日>
（10名以上の団体のご利用は事前にお申し込みください。）
休館日>
○月曜日・毎月最終火曜日（祝祭日にあたる場合は翌日）
○年末年始（12月28日～1月4日）（場合により変更あり）
夏休み期間中は休館日も開館します。



電話 092-847-5991 FAX 092-847-5970
〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-3-3